

栃木・史跡足利学校跡^{しせきあしかがっこう}

1 所在地 栃木県足利市昌平町

2 調査期間 一九八二年（昭57）八月～一九八八年二月

3 発掘機関 足利市教育委員会

4 調査担当者 橋本 勇・市橋一郎・中山俊彦・山崎博章

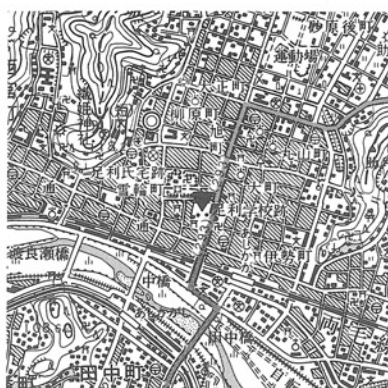
・大澤伸啓

5 遺跡の種類 学校跡

6 遺蹟の年代 江戸時代（一部中世）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

足利学校跡は北側に山地、南側に関東平野を望む平坦地に位置し、



（深谷・桐生及足利）

清水川（現渡良瀬川）や名草川・田島川が押し出す土砂によって形成された標高約三四mの自然堤防上に所在する。発掘調査の結果、方丈・庫裏・書院などの建物跡、庭園、井戸、堀、土塁などが検出された。

木簡（卒塔婆）は、敷地

の四周をめぐる堀の、東側の堀から一点出土した。東堀跡は江戸時代の図面どおり幅四間であることが確認でき、さらにこの下から中世頃の幅一m以上の堀状遺構が検出されている。木簡が出土したのは江戸時代の東堀からである。

ほかに木製品としては木杭・破片を除いて二七点あり、うち東堀からは、漆器椀五、下駄四、木桶底板一、柄杓底板一、不明木製品一点が江戸時代の層から出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・一切仏□慈雲想観信女十三回忌之□

塔此以功德同□覚路^{〔登力〕}

（540）×31×6 061

木簡は卒塔婆で、上半は欠損し、下方は地面に刺さりやすいように楔状に加工されている。出土した東堀跡のすぐ東側は臨濟宗善徳寺の墓地になっている。

（市橋一郎）

